

## 令和5年度第2回

### 和歌山県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会開催概要

#### 1 開催日時

令和6年3月8日（金） 15：00～16：30

#### 2 開催場所

和歌山支部 和歌山職業能力開発促進センター A棟204

#### 3 議題

- (1) 令和5年度事業実績について
- (2) 令和5年度和歌山県訓練計画専門部会の報告について
- (3) 令和6年度事業計画について
- (4) ものづくり分野に係る能力開発の推進状況について
- (5) その他

#### 4 議事経過

資料に沿って事務局から説明が行われた後、質疑及び意見交換がなされた。各委員から述べられた主な意見は以下のとおり。

- 和歌山県の労働人口が減少している中で、できる限り和歌山県内での就職に繋がるよう取り組んでいただきたい。
- 最近は、働くという行為を最小限まで省くといった考えにシフトしている。就職率や定着率を上げるには、実際に、様々な業種における若者の定着率等と、訓練を受講した者の定着率等を比較して対策を講ずる必要があると考える。本協議会は、様々な業界の委員が一堂に会しているので、傘下の事業所の給与水準や定着率等の情報を収集いただき、そのデータを基に、問題点等を本協議会等で検討していただきたい。
- 在職者を対象とした職業訓練は、労働者の個人の能力を育成することが主であるが、事業所側の視点やニーズに偏りすぎると、本位と少し矛盾する可能性がある。窓口としての事業所は大事であるが、事業所側の視点ばかりではなく、様々な産業で働く労働者の視点も大事にしていきたい。
- 企業実習付き訓練については、訓練内容と就職を希望されている方の気持ちとのギ

ヤップがあるものと思料。

定着率向上のためには、訓練を修了された方が、相談事がある際にいつでも戻ることができる環境を整えておくことが大事。ポリテクセンターとして就職後のサポートにしっかり取り組んでいただきたい。

- 時間に縛られ場所に縛られ労働するという概念が、ほとんど海外ではなくなっており、組織という概念が変わりつつある。そういう時代を踏まえて、我々が就職を考えていた時代と考え方が異なることを、我々も認識する必要がある。

そのためには、我々の勤労観、働くことに対する意識を改め、DXを進めていくのであれば、それに応じた働き方を受け入れていく必要がある。

- オペレーションの効率を上げていくことがコスト削減の方策であるが、多額の設備投資による大量生産より、少額の設備投資による多品種少量生産の方が効率的な場合があるので、そのためのスキルの伝承をポリテクセンターで実施していただきたい。

- DXの推進にはAIの活用が考えられるが、AIやOA機器の操作に特化した訓練コースを作るのではなく、様々なコースの中に生成AIや業務用ソフトを含めたミックス型で対応していただくことが現実的だと考える。

- 最近は、家庭で物を作る機会が少なくなっているので、親子もの作り体験教室は子供たちに非常に喜んでいただいていると評価できる。今年も10月に商工祭りを実施する予定なので、是非ご参加いただき、面白い企画をもっと提案していただきたい。

- 親子もの作り体験教室は、子供たちに手先を使って物を作る機会を提供して、もの作りに興味を持ってもらうという意味でも大事であり続けていただきたいが、3Dプリンターや3Dスキャナを活用して、手先を動かして物を作る体験と、別の方法でも物が作れる体験、そのためにはプログラミングが必要だという事実も同時に教えていただきたい。今後、新たな企画のひとつとして実施していただきたい。

令和5年度第2回和歌山県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構  
運営協議会 委員名簿

区 分	氏 名	所 属 及 び 職 名
学識経験者 (3名)	高岡 伸行 (会長)	和歌山大学経済学部教授
	榎本 ゆかり	ニュース和歌山株式会社取締役事業部長
	日高 亜季	和歌山県専修学校各種学校協会 (専修学校和歌山コンピュータビジネス専門学校校長代理)
労働者代表 (1名)	濱地 正由	日本労働組合総連合会・和歌山県連合会事務局長
中小企業等代表 (5名)	児玉 征也	和歌山県経営者協会専務理事
	田中 一壽	和歌山商工会議所専務理事
	山本 和秀	和歌山県商工会連合会専務理事
	中島 寛和	和歌山県中小企業団体中央会専務理事
	吉田 和史	和歌山県機械金属工業協同組合事務局長
行政機関 (4名)	上野 貴久	和歌山県商工観光労働部労働政策参事
	森永 起久夫	和歌山市産業交流局産業部長
	大塚 あすか	和歌山労働局職業安定部長
	上野山 勲	和歌山公共職業安定所長